

開館 20 周年記念展

杉本博司

趣味と芸術—味占郷 / 今昔三部作

Hiroshi Sugimoto: Art and Leisure / Past and Present in Three Parts

2015 年 10 月 28 日 (水)—12 月 23 日 (水・祝)

会期 2015 年 10 月 28 日 (水)—12 月 23 日 (水・祝)

開館時間 10:00—18:00 (金・土曜日は 20:00 まで) ※ 入場受付は閉館の 30 分前まで

休館日 11 月 2 日 (月)、12 月 7 日 (月)

観覧料 一般 1200 円 (1000 円) 大学生 700 円 (500 円)

※小・中学生、高校生、障害者手帳をお持ちの方とその介護者 1 名は無料

※ () 内は前売・団体 20 名以上の料金

※ 市内在住 65 歳以上の方は一般料金より 2 割引

※ 前売券は、千葉市美術館ミュージアムショップ (10 月 18 日まで)、ローソンチケット (Lコード:38654)、セブンイレブン (セブンチケット)、千葉都市モノレール「千葉みなと駅」「千葉駅」「都賀駅」「千城台駅」の窓口 (12 月 23 日まで) にて販売。

※ 11 月 3 日 (火・祝) は「開館 20 周年記念日」につき観覧無料。

主催 千葉市美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会

特別協賛 ドンペリニオン、アマナサルト

協賛 ライオン、清水建設、大日本印刷、損保ジャパン日本興亜

協力 公益財団法人小田原文化財団、ロンドンギャラリー、ギャラリー小柳

展覧会概要

1996 年 1 月、千葉市美術館は開館記念展の第 2 弾として「Tranquility—静謐」展を開催しました。同展の招待作家のひとり杉本博司は、そのとき《海景》シリーズ 18 点を展示し、展覧会終了後それらは当館のコレクションに収蔵されました。千葉市美術館では、本年 11 月に開館 20 周年を迎えるにあたり、再び杉本を招待し、個展を開催いたします。

千葉市美術館は、現代美術と日本の近世絵画・版画を活動の柱とするユニークな美術館です。一方で古美術商の経験を持つ杉本博司も、日本美術に大変造詣が深く、三十三間堂の千体仏を写した《仏の海》(1995) や《松林図》(2001) など、日本の伝統美を自身の写真作品に取り入れてきました。また 2003 年より世界各地を巡回した展覧会「歴史の歴史」では、自らコレクションした古美術品を自作と組み合わせたインスタレーションも試みています。現代美術の世界で古きものに新たな生命を注ぎ続ける杉本は、まさに当館の 20 周年記念展にふさわしい作家と言えます。

展示室 7 階の「趣味と芸術」では、平安から江戸時代の古物を中心に、西洋伝来の品々、昭和の珍品をも含む杉本コレクションを使い、作家自ら 27 の床のしつらえをつくりあげます。これらは『婦人画報』で連載中の「謎の割烹 味占郷」のなかで、杉本が各界の著名人をもてなすために、毎回そのゲストにふさわしい掛軸と置物を選んで構成した床飾りを再現したものです。同時代の美術品を組み合わせたしつらえもあれば、17 世紀の西洋版画を自ら軸装した《レンブラント天使来迎図》のかたわらに江戸時代初期の《織部燭台》を配したり、昭和の建築家白井晟一の書の脇に奈良時代の《百万塔》を置くといった、見るものの意表を突くような斬新なしつらえもあります。杉本は、「趣味」として蒐集した古今の名品・珍品を組み合わせることで、新たな「芸術」を生み出そうとしているのです。

あわせて 8 階の「今昔三部作」では、杉本の代表作というべき 3 つの写真シリーズ、《ジオラマ》(1975-)、《劇場》(1975-)、《海景》(1980-) を、ニューヨークの杉本スタジオからお借りした 16 点の大判プリントにより展覧します。80 年代から 90 年代初頭にかけて、杉本はこの三部作により世界的な名声を得ました。新たな写真シリーズを次々と発表していった 90 年代中頃以降も、三部作の制作は続けられてきました。今回の展示では、各シリーズとも初期作から最新作までを含むため、杉本自身により「今昔三部作」と題されています。幅 4m を超えるジオラマシリーズの最新作《オリンピック雨林》(2012) や、縦版型による劇場シリーズの最新作《テアトロ・デイ・ロツィ、シエナ》(2014) も日本初公開されます。

「趣味と芸術」で現代美術の枠を超えて活動を続ける現在の杉本をお見せし、「今昔三部作」では 20 年前開館記念展「Tranquility」に参加したころの杉本をお見せすることで、この作家の魅力と興行きを十分に味わっていただけたと思います。

趣味と芸術一味占郷

人類史の中で精神は時代に宿り、そして芸術は時代精神と同衾した。しかし今、時代は高度資本主義の中で、宿るべき精神の不在、または精神の不在そのものの商品化へと流されつつある。芸術が腐臭を放し始めた昨今、私は趣味の世界へと時代を遡行していくことにした。古の文明が残してくれた遺物を愛しみ、撫でさすり、眺めていると、失ったものの大切さと共に、今の時代が見えてくる。私は我が道を楽しみながら生きて来た。これを道楽と言う。道楽者のアナクロニズム、私はそれ以外に時代を映す術を知らない。

杉本博司

今昔三部作

二十代なかばに道楽として始めた写真の道楽の果てとして、ジオラマ、劇場、海景三部作の、最古作と最新作を展示する。成長と衰退、希望と諦念、未熟と完熟、青さと傲岸、昔の名前でやってます。

杉本博司

杉本博司略歴

現代美術作家。1948年東京生れ。立教大学経済学部卒業後、1970年に渡米、ロサンゼルスにあるアート・センター・カレッジ・オブ・デザインで写真を学び、1974年よりニューヨーク在住。8×10インチの大判カメラで撮影する手法を確立し、その精緻な技術によって表現される作品は国際的な評価を確立した。

1979年から10年間ニューヨークで古美術店を営み、個人でも古美術品を蒐集。2003年から「歴史の歴史」と題して、蒐集品と自身の写真作品を組み合わせる表現活動を展開する。また、2002年には直島家プロジェクトとして《護王神社—アプロプリエイト・プロポーシオン》を竣工。その他にも設計を手がけ、建築家としての顔も持つ。近年は文楽、能といった古典芸能の舞台美術や演出を手がけるなど、様々なシーンで活躍している。

1988年毎日芸術賞、2009年高松宮殿下記念世界文化賞、2010年紫綬褒章、2013年フランス芸術文化勲章オフィシエ、2014年第一回イサム・ノグチ賞等受賞多数。

主な著書に『苔のむすまで』、『現な像』（新潮社）、『歴史の歴史』（新素材研究所）、『空間感』（マガジンハウス）、『アートの起源』（新潮社）など。



見どころ

・国際的現代美術作家、久しぶりの国内個展

1990年代以降国際的に評価が高まり、今や世界を代表する現代美術作家となった杉本博司。本展では、杉本の写真シリーズの中で最もよく知られる《ジオラマ》、《劇場》、《海景》を、ニューヨークの杉本スタジオから大判プリント(119.4cm×149.2cm)をお借りして展示します。この大判プリントは国内でも点数が少なく、三部作の公開自体が日本では森美術館「杉本博司 時間の終わり」(2005年)ぶりとなります。大規模な個展としても、原美術館「杉本博司 ハダカから被服へ」(2012年)以来の国内開催となり、注目が集まります。

・写真から、「床飾り」「しつらえ」へ

ニューヨークに渡ったのちに作家活動のかたわら古美術商となり、自らもコレクターとして蒐集するようになった杉本博司。次第に自身のコレクションを作品に使用するようになります。コレクションと自作の写真とのコラボレーションはこれまでも行われてきましたが、本展の「趣味と芸術」では杉本コレクションを使用し、自らが床をデザイン。27の床飾りをしつらえます。

【巡回展情報】

2016年4月16日～6月19日(予定) 細見美術館「杉本博司 趣味と芸術一味占郷」

※「今昔三部作」の巡回は予定されておりません。

関連企画

■ 開館20周年記念講演会(事前申込制)

「時候を測る－江之浦測候所建設計画近況報告」

講師: 杉本博司

10月31日(土) / 14:00より(13:30開場予定) / 11階講堂にて

定員150名 / 聴講無料

神奈川県小田原にて、2017年のオープンに向け準備がすすめられている「小田原文化財団 江の浦測候所」。文化芸術の発信地として設立されるこの異色の施設について、設立者である杉本博司自らが解説する。

■ 対談 杉本博司 × 千宗屋 「趣味と芸術」(事前申込制)

出演: 杉本博司、千宗屋 進行: 河合正朝(当館館長)

11月7日(土) / 14:00より(13:30開場) / 11階講堂にて

定員150名 / 聴講無料

杉本博司と武者小路千家15代家元後嗣が、本展覧会のテーマである「趣味と芸術」について語り合う。

■ ワークショップ「サイアノタイプ体験 ものの影を撮る」(事前申込制)

講師: 倉谷拓朴(写真家)

11月29日(日) / 10:00より / 11階講堂にて / 定員20名 / 参加費500円

対象 小学4年生以上

感光紙を手作りして、フォトグラムの技法でもの影を写し撮ります。

*当館ホームページで詳細をご確認の上、お申し込みください。

【申込方法】上記3イベントとも往復はがきまたはホームページからお申込みください。往復はがきの場合は郵便番号、住所、氏名、電話番号、希望のイベント名、参加人数(2名まで)を明記の上、

〒260-8733 千葉市中央区中央3-10-8 千葉市美術館 イベント係 まで

※お申込は1つのイベントにつき1通、申込多数の場合は抽選

※申込締切: 講演会10月21日(水)必着、対談10月28日(水)必着、ワークショップ11月18日(水)必着

※ワークショップ希望の方は参加者の年齢をご記入ください。

■ 映画上映会

「SUGIMOTO」

2008年から5年間、杉本博司の活動を追いかけた記録映画。インタビューを軸に、渡米から今日に至る経緯や、制作へのこだわりを紹介。またアメリカ自然史博物館で撮影する杉本に同行し、現像、プリントの一連の工程を初めて動画に収録。

監督: 岸本康 (2013年作品、68分)

11月22日(日) / 14:00より(13:30開場) / 11階講堂にて

先着150名(当日12:00より11階にて整理券配布) / 観覧無料

■ 市民美術講座

「杉本博司と古美術」

講師: 河合正朝(当館館長)

12月5日(土) / 14:00より(13:30開場) / 11階講堂にて

先着150名 / 聴講無料

「ジオラマ、劇場、海景－杉本博司の初期三部作」

講師: 水沼啓和(当館学芸員)

12月19日(土) / 14:00より(13:30開場) / 11階講堂にて

先着150名 / 聴講無料

■ ギャラリートーク

担当学芸員による -10月28日(水)

ボランティアスタッフによる - 会期中の毎週水曜日14:00より(10月28日をのぞく)

記者レクチャー

報道関係の皆様を対象に、披露説明会を行います。スライドレクチャーにて作品の見どころを担当学芸員よりご説明し、その後展示室をご覧ください。

10月27日(火) / 15:00より(1時間程度) / 10階会議室にて(その後、8・7階展示室へご案内いたします)

参加ご希望の方は同封の申込書に必要事項をご記入の上、FAXにてご連絡ください。

次回展予告

■ 次回展予告

「開館20周年記念 初期浮世絵展－版の力・筆の力－」

2016年1月9日(土) - 2月28日(日)

交通案内

千葉市美術館

〒260-8733 千葉市中央区中央3-10-8

Tel. 043-221-2311(代) / FAX. 043-221-2316 / <http://www.ccma-net.jp>

◎ JR 千葉駅東口より

・徒歩約15分

・バスのりば⑦より大学病院行または南矢作行にて「中央3丁目」下車徒歩約3分

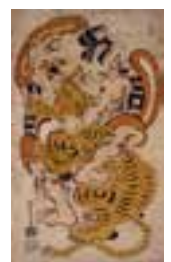
・千葉都市モノレール県庁前方面行「葭川公園駅」下車徒歩約5分

◎ 京成千葉中央駅東口より徒歩約10分

◎ 東京方面から車では京葉道路・東関東自動車道で宮野木ジャンクションから木更津方面へ、貝塚IC下車国道51号を千葉市街方面へ約3km、広小路交差点近く

◎ 千葉市中央区役所と同じ建物です

◎ 地下に区役所と共有の駐車場がありますが、混雑が予想されますので、なるべく公共の交通機関をご利用ください



鳥居清長
「二代目市川團十郎の虎退治」
成徳3年(1713)
千葉市美術館蔵



展覧会広報用として作品画像をご用意しております。是非、本展をご紹介くださいますようお願いいたします。ご紹介いただける場合は、別紙の申込書に必要事項をご記入の上、FAXにてご連絡ください。画像の使用は1回限りとし、展覧会紹介の目的にのみご使用ください。

開館20周年記念展 杉本博司 趣味と芸術一味占郷 / 今昔三部作

Hiroshi Sugimoto: Art and Leisure / Past and Present in Three Parts



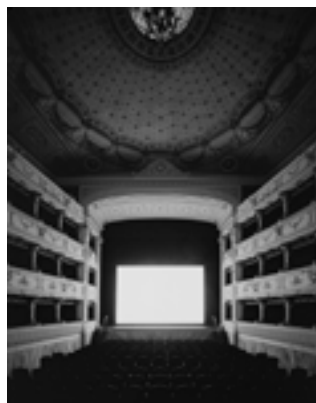
1. 「阿古陀形兜」鎌倉時代、
「夏草」2015年 須田悦弘
撮影:杉本博司



5. 「ハイエナ・ジャッカル・
ハゲタカ」1976年
©Hiroshi Sugimoto/Courtesy
of Gallery Koyanagi



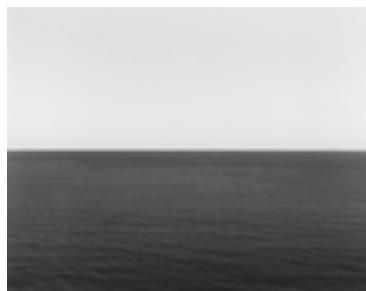
2. 「月下紅白梅図」
2014年 杉本博司
撮影:杉本博司



6. 「テアトロ・デイ・ロツツイ、シエナ」
2014年
©Hiroshi Sugimoto/Courtesy of
Gallery Koyanagi



3. 軸「梅花の偈」一休宗純、
雨極銅花入「銘咲甫大夫」
撮影:森山雅智 ©Hearst Fujingaho



7. 「カリブ海、ジャマイカ」
1980年
©Hiroshi Sugimoto/
Courtesy of Gallery
Koyanagi



4. 軸 堀口捨己、キリスト胸像 14世紀
イタリア トスカーナ地方
撮影:森山雅智 ©Hearst Fujingaho



8. 「オリンピック雨林」2012年
©Hiroshi Sugimoto/Courtesy of Gallery Koyanagi

開館20周年記念展 杉本博司 趣味と芸術一味占郷 / 今昔三部作
広報用画像データ・プレゼント用招待券申込書

■ 写真ご使用に際してのお願い

- * 作品写真の使用は、本展のご紹介をいただける場合のみとさせていただきます。
- * 写真のご利用は、1 申込について 1 回とし、使用後のデータは破棄してください。
- * 基本情報確認のため、広報担当まで一度校正紙をお送りください。
- * 掲載後、広報担当まで見本誌をご送付くださいますようお願いいたします。
- * お手数ですが、招待券プレゼントの受付、発送などは、貴編集部にてお願いいたします。
原則として、掲載紙をご送付いただきました時に招待券をお送りいたします。

千葉市美術館
広報担当 行
FAX: 043-221-2316

貴社名：	媒体名：
ご担当者名：	発行予定日：
TEL：	発行部数：
FAX：	定価：
Email：	掲載予定コーナー名等：
画像到着希望日： 月 日 時まで	画像の掲載サイズ <small>(おおよそで結構です 例：5cm 四方、など)</small> ：

■ 画像データ申込 (ご希望のデータの番号に○をつけてください。)

1. 「阿古陀形兜」鎌倉時代、「夏草」2015年 須田悦弘 撮影：杉本博司
2. 「月下紅白梅図」2014年 杉本博司 撮影：杉本博司
3. 軸「梅花の偈」一休宗純、雨樋銅花入「銘咲甫大夫」 撮影：森山雅智 ©Hearst Fujingaho
4. 軸 堀口捨己、キリスト胸像 14世紀 イタリア トスカーナ地方 撮影：森山雅智 ©Hearst Fujingaho
5. 「ハイエナ・ジャッカル・ハゲタカ」1976年 ©Hiroshi Sugimoto/Courtesy of Gallery Koyanagi
6. 「テアトロ・デイ・ロツィ、シエナ」2014年 ©Hiroshi Sugimoto/Courtesy of Gallery Koyanagi
7. 「カリブ海、ジャマイカ」1980年 ©Hiroshi Sugimoto/Courtesy of Gallery Koyanagi
8. 「オリンピック雨林」2012年 ©Hiroshi Sugimoto/Courtesy of Gallery Koyanagi

■ プレゼント用招待券申込
(ご希望の場合はチェックをつけてください)

5 組 10 名様分 希望します。
(それ以外の枚数が必要な場合は別途ご相談下さい。)

チケット送付先
ご住所：〒

問い合わせ先
千葉市美術館 〒260-8733 千葉市中央区中央 3-10-8
Tel. 043-221-2311(代表) / 043-221-2313 (直通)
Fax. 043-221-2316
HP. <http://www.ccma-net.jp/>

担当学芸員：水沼啓和
広報担当：磯野 愛